

覚 書 (部外関連鉄道近接工費用)

2000年 00月 00日

工事件名 : 00本線00駅・00駅間00k000m付近 00工事
工 期 : (着手) 2000年 00月 00日 (しゅん功予定) 2000年 00月 00日

	会社・事業者名・所属等	職名・資格名	代 表 者 名
甲 (JR九州)	九州旅客鉄道株式会社 00鉄道事業部		押印は不要です
乙 (発注者)	00株式会社	代表取締役	0000
丙 (施工者)	△△建設株式会社	現場代理人	0000

※システムを使用して取交わす場合、押印は不要
本工事の施工に当っては、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、乙及び丙は下記打合せ事項を厳守します。なお、打合せ事項等に変更が生じた場合は、乙及び丙は速やかに甲へ連絡し再度打合せを行うものとします。また、甲が列車運行に影響が生じるおそれがあると認めた場合や打合せ事項等と異なる状況を認めた場合は施工を中止するものとします。

1 施工目的及び概要 (必要により図面等を添付する)

本工事は、00本線00駅・00駅間00k000m付近のJR線路に近接して00工事を施工するものである

簡単に工事概況を記載して下さい

2 保安関係者等配置者及び連絡先

「連絡体制表(様式-6)」、施工打合せWebシステムのとおり

3 打合せ、確認事項

施工内容・安全対策に応じて、遵守事項等を記入して下さい

施 工 位 置 ※必要により図面等を添付	00本線 00駅 ~ 00駅間 00k 000m付近~ 00k 000m付近、延長約 00m間	
線 路 近 接 の 程 度	軌道中心から (最小) 00m	
事故防止計画書の提出	不要 <input checked="" type="radio"/> 必要	別紙のとおり
立入り防護設備等の設置	無 <input checked="" type="radio"/> 有	設備物 : 移動式立入禁止柵
通常適用する 列車見張り方式	現物・ダイヤ 見張り方式 [列車見通し距離 () m] [踏切警報機活用方式 第 種]	
列車の運行状況が 正常でない場合	作業中止 異常時現物 見張り方式	[列車見通し距離 () m] [踏切警報機活用方式 第 種]
予告中断方式 現物中断方式 の適用	無 <input checked="" type="radio"/> 有	予告中断方式を適用する場合 [作業中断のタイミング 通過0 分前] 現物中断方式を適用する場合 [列車見通し距離 000m]

「工務関係従事員触車事故防止要領を適用して工事を施工する場合(線路中心から5m以内での施工)の列車見張り方式はこちらに記入して下さい

構造物等施設への影響	無 <input checked="" type="radio"/> 有	遵守事項等	近接する電力柱に注意喚起標を設置する
軌道への影響	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ 有	遵守事項等	記載例以外にも当該工事における工事用重機械の使用、 その他特記すべき遵守事項があれば記入して下さい
お客さまへの影響	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ 有	遵守事項等	
工事用重機械	無 <input checked="" type="radio"/> 有	使用機械名	70t吊りホイールクレーン
		指揮者配置	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
		遵守事項等	列車接近時3分前に作業を一時中断する
工事用踏切の使用	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ 有		
建築限界支障の防護措置	<input checked="" type="radio"/> 不要 ・ 必要		
落下・転落の防護措置	<input checked="" type="radio"/> 不要 ・ 必要		
埋設管・ケーブル等の防護措置	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ 有		
架空線等及び架線柱等の防護措置	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ 有		工事用重機械の使用、地下埋設物がある場合、 架空線等が近接する場合は、別途、覚書「様式- 2」の提出が必要です。
その他保安設備等	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ 有		
立会を必要とする工事	<input checked="" type="radio"/> 無 ・ 有		
様式-2により 別途打合せを必要とする 工事内容・項目		J R	<input checked="" type="radio"/> 工事用重機械(注2) 地下埋設物 架空線等 保守用車 線路閉鎖 工事用踏切
		J R以外	支障物等確認 ()
安全対策への取組み			
その他特記事項・遵守事項等			

注) 1. 見張り方式が複数となる場合は、様式-2に記入して提出すること
 2. 重機械運転者の配置を要しないものは、提出不要とする
 ※ 記入欄不足等の場合は、適宜別紙を添付する
 (改訂)2022.03

覚 書

20〇〇年 〇〇月 〇〇日

工事件名： 〇〇本線〇〇駅・〇〇駅間〇〇k〇〇〇m付近 〇〇工事

本工事の施工に当っては、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記確認事項を守り現場作業員まで徹底します。

監督員		印		会社名 △△建設株式会社	
				現場代理人 ◎◎◎◎	
打合せ者	JR (監督) 側		施工者側		
	職 名	氏 名	職 名	氏 名	
			工事管理者	△△△△	

◎ 確 認 事 項

押印は不要です

項 目	確 認 事 項
<p>工事用重機械</p> <p>※使用する重機械及び現場の特状に応じた安全措置を必ず明記して下さい。必要に応じて内容を補足する図面等を添付して下さい。</p>	使用期間 20〇〇年〇月〇日～20〇〇年〇月〇日
	使用機械 名 称： 70t吊りホイールクレーン 型式性能： GR-700N-1
	注意事項
	・工事用重機械の使用は車両系の資格及びJRの認定証を有し、覚書に届けを提出しているものに限る。
	・工事用重機械を使用する前には始業前点検を行う。
	・工事用重機械を使用する際、重機械指揮者を適正に配置する。
	・アウトリガーの確認を行い、安全装置を確実に作動させる。
	・クレーン使用時は旋回内立入禁止措置をとる。
	・作業終了後は安全な場所に留置して施錠し、鍵は工事管理者が保管する。
	異常時の処置
・直ちに作業を中止して列車防護を行うとともに、監督員に連絡して指示を受ける。	
	記載例以外にも当該工事における注意事項がありましたら追記して下さい。

注) 記入欄不足や図面等は、適宜別紙を添付する

架空線等に近接する場合

覚 書

20〇〇年 〇〇月 〇〇日

工事件名： 〇〇本線〇〇駅・〇〇駅間〇〇k〇〇〇m付近 〇〇工事

本工事の施工に当っては、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記確認事項を守り現場作業員まで徹底します。

会 社 名 △△建設株式会社

現場代理人 ◎◎◎◎

監督員	印		現場代理人 ◎◎◎◎	
打合せ者	JR (監督) 側		施 工 者 側	
	職 名	氏 名	職 名	氏 名
		印	工事管理者	△△△△

押印は不要です

◎ 確 認 事 項

項 目	確 認 事 項
架空線等	<ul style="list-style-type: none"> ・施工着手前に現場調査を行い、監督員から「架空電車線等近接作業打合せ書」(写)を受領する。 ・架空電車線等から2.0m以内の接近限界を侵す恐れのある作業を行わない。 ・架空電車線等に近接した場所で、3mを超える長尺物(単管パイプ、鉄筋、足場板等)を使用しない ・やむを得ず3mを超える長尺物を使用する等、接近限界を侵す恐れのある作業を行う場合は、絶対に接近限界を侵さない安全措置を施すか、き電停止手配をとった上での作業を行う。(き電停止間合い)
<p>※使用する重機械及び現場の特状に応じた安全措置を必ず明記して下さい。必要に応じて内容を補足する図面等を添付して下さい。</p>	<p>※上記の基本的な事項に加え、現場の特状に応じた安全措置を必ず明記のうえ、別紙に架空電車線等を明記した図面を添付して下さい</p>
	<p>記載例以外にも当該工事における注意事項がありましたら追記して下さい。</p>

注) 記入欄不足や図面等は、適宜別紙を添付する

連絡体制表

工事件名： ○○本線○○駅・○○駅間○○k○○○m付近 ○○工事

◎日々の連絡先

日々の着手・終了時の報告	不要 必要	JR(甲)側連絡先	施工打合せWebシステム
日々の列車運行状況の確認	不要 必要	JR(甲)側連絡先	○○指令 ○○○-○○○-○○○○
施工打合せ	不要 必要	JR(甲)側連絡先	施工打合せWebシステム

◎連絡体制

1. いついかなる場合でも、緊急連絡ができる体制とする
2. 日々の作業時間帯での施工現場との連絡体制の確立が必要な場合は、施工打合せで明示する

職名・資格等名	氏名	昼間の連絡先	夜間の連絡先
J R (甲) 側			
	関係指令	施設指令	092-624-3833
乙 側	担当者	○○○○	○○○-○○○○-○○○○ (携帯)
丙 側	現場代理人	◎◎◎◎	○○○-○○○○-○○○○ (携帯)
	主任技術者	○○○○	○○○-○○○○-○○○○ (携帯)
	工事管理者	△△△△	○○○-○○○○-○○○○ (携帯)
	〃	□□□□	○○○-○○○○-○○○○ (携帯)

※1) JR発注の際は甲側をJR監督員等、乙側を施工者とする

※2) 部外関連鉄道近接工事の際は甲側をJR担当者、乙側を発注者、丙側を施工者とする

※3) 甲及び乙のみで覚書及び連絡体制表を取交わす場合は、丙側欄に斜線を引く

※4) 変更内容及び追加事項は朱書きとする

(改訂)2022.03